

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年10月23 日

1. 禁煙ポリシーを持つデンマークの某病院におけるリアルな喫煙状態
2. デルタ株とオミクロン株流行時に新型コロナ感染で入院した人々の死亡リスク：米国2020年4月～2022年6月

【松崎雑感】

1. デンマークも少し前の日本と同じような状況。モク拾い調査は大事ですね。
2. 新型コロナに感染しても入院するリスクは1%程度でしょう。入院した方の死亡リスクも数%以下だったというアメリカのデータです。

という事は、新型コロナに感染しても、死なないためには、ワクチン、早期検査が重要だという事です。

禁煙ポリシーを持つデンマークの某病院におけるリアルな喫煙状態

Mortensen AM, Kolstad HA, Hansen KK. **Extent of smoking at a Danish hospital with a smoke-free policy** [published online ahead of print, 2022 Oct 21]. *Scand J Public Health.* 2022;14034948221119637. doi:10.1177/14034948221119637

【松崎注釈：デンマークの病院の現状についての論文。smoke-free policyと表現しているが、敷地内完全禁煙ではなく、院内は禁煙だが、敷地内に喫煙所を設置しているようだ。しかし喫煙所を使わず屋外で喫煙している場合が目立つという報告である】

目的

デンマークの喫煙率は20%である。受動喫煙の健康影響は良く周知されている。敷地内禁煙であるこの医療施設のスタッフの喫煙は禁止されているが、患者や来訪者は院外の喫煙所（smoking cabin）で喫煙が可能である。この医療機関における喫煙の現状を調査した。

方法

2020年4月に、われわれは病院内外の吸い殻を収集し、院外における喫煙状況を調査した。

結果

週当たり7152本の吸い殻が収集され、4日間に院外（敷地内）における368名の喫煙が目撃された。

吸い殻の55%は喫煙所の外で収集された。また喫煙者の62%は喫煙所の外で喫煙していた。また、31名の病院スタッフの喫煙も目撃された。

結論

禁煙とされている病院でも喫煙が多く行われていることが分かった。喫煙所の外での喫煙が増えていることは、新型コロナパンデミックと関連している可能性がある。

医療施設における喫煙は患者、来訪者、スタッフに受動喫煙の害を及ぼす。

医療機関は人々に例外なき禁煙社会の手本を示す役割を果たすことができるはずだが、そのチャンスを十分に活用しているとは言い難い。

デルタ株とオミクロン株流行時に新型コロナ感染で入院した人々の死亡リスク ： 米国2020年4月～2022年6月

Adjei S, Hong K, Molinari NM, et al. Mortality Risk Among Patients Hospitalized Primarily for COVID-19 During the Omicron and Delta Variant Pandemic Periods - United States, April 2020-June 2022. *MMWR Morb Mortal Wkly Rep.* 2022;71(37):1182-1189. Published 2022 Sep 16. doi:10.15585/mmwr.mm7137a4

新型コロナ死亡率は年齢、基礎疾患と関連している。

オミクロン株流行が始まった時期の死亡率は以前の変異株流行時よりも低くなっていた。

新型コロナ感染を持つ入院患者のうち、新型コロナ感染が主病名である比率は低下しており、死亡率低下と関連している。

デルタ株からオミクロン株流行期別の死亡率をグラフに示す。

新型コロナ感染が主病名で入院した人々の死亡率は、初期オミクロン流行時で100人あたり13.1人、後期オミクロン流行時で4.9人となった。

これはデルタ株流行期の15.1人より有意に低い。

後期オミクロン流行期では、入院者の死亡の81.9%は65才以上の人々であり、73.4%は3～4個の基礎疾患を持つ人々に起きていた。

重症化リスクのある人々ではワクチン接種、早期診断、早期治療が重要である。

新型コロナウイルス感染が主病名の入院であっても死亡率は極めて低くなっている



入院患者の死亡率：新型コロナウイルス感染の有無、退院時サマリーの主病名が新型コロナウイルスかそれ以外か別の統計